

# アセスメントに基づいたASD者への構造化による支援

## －BWAP2によるソフトスキルのアセスメントから－

○井出 春華（早稲田大学大学院 教育学研究科）

梅永 雄二（早稲田大学大学院 教育学研究科）

### 1 問題と目的

#### (1) ASD者の特性と社会参加の課題

自閉スペクトラム症（以下「ASD」という。）者が社会参加をして行く上で課題として抱えている事の1つに、就労の困難性が挙げられる（Ericzen・Fitch・Kinnea et al., 2018<sup>2)</sup>）。就労の問題は就職段階だけではなく、その後の定着にも多くの課題を生じている。

#### (2) TEACCHの取り組み

米国 North Carolina 大学で開発された TEACCH® Autism Program では、長年に渡る ASD 当事者の認知特性研究に基づき、ASD 者とその家族を対象とした構造化による生涯支援が行われてきた。

特に通常の高校を卒業してから成人するまでの間の知的障害を伴わない ASD 者を対象とした、高校・大学から就労への移行のためのプログラムに TEACCH School Transition to Employment and Post-Secondary Education Program（以下「T-STEP」という。）という6つの段階（21のセッション）から成るマニュアル化された介入方法がある。

#### (3) 必要な支援—ソフトスキルのアセスメント

「ソフトスキル」とは仕事自体に必要な能力を指す「ハードスキル」の対義語で、仕事に直結しないものの日常生活能力や対人関係等、就労生活に間接的に関連するスキルの事を指す（梅永・井口, 2018<sup>6)</sup>）。

知的障害を伴う ASD 者に比べ、高機能 ASD 者の方がより就労に際して困難性を抱えている事が明らかになっているが（Taylor・Seltzer, 2011<sup>5)</sup>）、T-STEP はその様に今まであまり注目されて来なかった青年期の高機能 ASD 者支援に特化したものであるため、彼らのソフトスキルのアセスメントに基づいた支援に、牽いては安定した就労に寄与する事が期待される。

また、ASD 児者は特性上、1つのスキルや習慣を身に付けるのに定型発達児者より非常に多くの時間を要する事に加え「変更」に困難を抱えているため、これらのスキルは幼少期からライフスキルとして身に着けておくことが望まれる。

そこで、本研究では TEACCH® Autism Program の T-STEP で使用されている Becker Work Adjustment Profile（以下「BWAP」という。）を用い、ASD 者の特性が就労上どのような問題を呈しているかを把握することを目的とする。

### 2 方法

#### (1) 対象者

本研究では対象として福祉施設、就労移行支援事業所、特例子会社等に在籍している成人期 ASD 者を設定する。

本調査に先駆け、特例子会社、生活介護事業所、就労移行支援事業所、放課後等デイサービス、自動車教習所等の利用者12名を対象に予備調査を実施した。なお、BWAP に定められている対象年齢は12～69歳であり、この予備調査における対象者の年齢は17～42歳（10代：4名、20代：6名、30代：1名、40代：1名）であった。

本調査では高等特別支援学校の生徒である15歳～18歳の2名程度を対象とすることを予定している。

#### (2) 手続き

##### ア BWAP2とは

BWAP とは1989年、オハイオ州コロンバス市にあるコロンバス州立大学で知的障害の有る人を評価するために開発された尺度の公開版であり、BWAP2 はこれが2005年に改訂されたものである。

BWAP2 では、行動や活動を0（最もスキルが少ない）から4（最もスキルが有る）までの5段階の記述-図式評定尺度法で測定する。

検査用紙には63個の質問項目が含まれており、それが「職業習慣/態度（HA）」「対人関係（IR）」「認知能力（CO）」「職務遂行能力（WP）」の4つの領域に分かれている。そして、それらの合成得点若しくは合計点が「総合的職場適応能力（BWA）」と名付けられている。

##### イ BWAP2の実施

就労上どのような側面が課題となっており、またどのような支援が必要かを把握するために BWAP2 を実施する。BWAP2 の結果は実際の作業活動を観察することによって導き出される。よって、本研究においては普段の活動中に BWAP2 を実施し、そこで見出した課題点に基づき構造化による支援を行い、再度 BWAP2 を実施してその効果を評価する。また、必要に応じて担当者に質問紙や聞き取りを行う。

### 3 結果

#### (1) 予備調査

予備調査の対象者12名の内10代の1名は全体的に著しく低い結果を示したため、それ以外の11名を有意と見なした。

粗点をTスコアに換算し、標準化したものの平均を図に示す。

結果のグラフから、COは高くてもHAやIRが低いという事が見出され、ソフトスキルの領域の弱さが把握出来る。

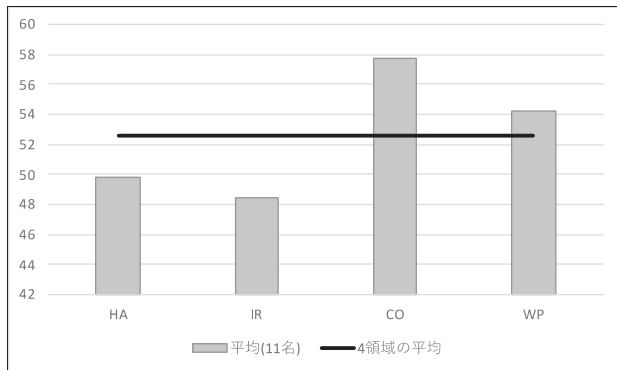


図 領域別のTスコア

## (2) 本調査

予備調査の結果から、本調査においてもHAやIRが主たる困難として示されることが予想される。

## 4 考察

### (1) ソフトスキル評価の必要性

予備調査の結果、知的に高いASD者であっても仕事の習慣・態度や対人関係の構築・維持に関するスキルが就労の困難性の主たる要因となっている事が明らかになった。これはASD者が独特なコミュニケーション様式や行動特徴を示すことに起因していると考えられる。

従来の職業評価ではハードスキルの評価のみでソフトスキルの評価が為されていなかったため、今後は従来のアセスメントでは不十分であった実際の現場での様子の観察を通しての評価が必要であると言える。

### (2) 構造化に特化したアセスメント

BWAP2に含まれている項目ではソフトスキルをより詳細に観察できるため、本調査においても構造化による支援の方向性を決める有効な手掛かりとなることが考えられる。

今後は知的障害を伴うASD者への構造化によるライフスキル/ソーシャルスキル支援は勿論、高機能ASD者への構造化による就労支援にも広く活用できる可能性が有る。

### (3) 個別の支援目標

BWAP2ではHA、IR、WPなどソフトスキルの側面でのアセスメントが実施される事により、個別の支援目標が明確になった(Becker, 2005<sup>1)</sup>)。またそこで判明した課題を基に学校で教育目標も設定出来る様になるため、早期からのキャリア教育が将来の適切なジョブマッチングに寄与するという事が言える。

### (4) ASD者に特化した構造化

ASD者には特性に合致した構造化が有効で、そのためのアセスメントを丁寧に行う必要性が有る(Müller・Shuler・Burton and Yates,2003<sup>4)</sup>;Keel・Mesibov・Woods, 1997<sup>3)</sup>)。

その点においてBWAP2はソフトスキル面の評価項目が充実している事や身近な職場での支援者が評価者となっている事等から有効なアセスメントツールであると言える。

### 【参考文献】

- 1) Becker,R.L.(2005):Becker Work Adjustment Profile:2 Second Edition. Elbern Publications.
- 2) Ericzen,Fitch,Kinnear,Jenkins,Twamley,Smith,Montano, Feder,Crooke,Winnerand Leon(2018) : Developmental of the Supported Employment, Comprehensive Cognitive Enhancement, and Social Skills program for adults on the autism spectrum: Results of initial study.Autism, Vol. 22(1) 6-19.
- 3) Keel,J.H., Mesibov,G.B. and Woods,A.V.(1997):TEACCH-Supported Employment Program. Journal of Autism and Developmental Disorders,27(1),3-9.
- 4) Müller,E.,Schuler,A.,Burton,B.A. and Yates,G.B.(2003): Meeting the vocational support needs of individuals with Asperger Syndrome and other autism spectrum disabilities. Journal of Vocational Rehabilitation,18,163-175.
- 5) Taylor and Seltzer(2011):Employment and Post-Secondary Educational Activities for Young Adults with Autism Spectrum Disorders During the Transition to Adulthood.
- 6) 梅永雄二・井口修一(2018) : 高機能ASDに特化した就労支援プログラム-ESPIDD. 明石書店.